

2019年2月19日
住友生命保険相互会社

文部科学省・厚生労働省後援 住友生命社会貢献事業 第12回『未来を強くする子育てプロジェクト』受賞者決定

【子育て支援活動の表彰】

- **スミセイ未来大賞・文部科学大臣賞 1組**
一般社団法人 チャレキッズ（福岡県福岡市）
～障がいのある子どもたちのキャリア教育プロジェクトを推進～
- **スミセイ未来大賞・厚生労働大臣賞 1組**
特定非営利活動法人 とりで（山口県岩国市）
～自立援助ホームの運営を核に地域ぐるみで子どもたちを支える活動の実施～
- **スミセイ未来賞 10組**

【女性研究者への支援】

- **スミセイ女性研究者奨励賞 10名**

※受賞者一覧は次項をご参照ください

住友生命保険相互会社（社長 橋本雅博）は、2007年からより良い子育て環境の整備にむけた「未来を強くする子育てプロジェクト」に取り組んでおります。

本プロジェクトでは、より良い子育て環境づくりに取り組み、優れた成果を上げている団体や個人に贈る「子育て支援活動の表彰」と、人文・社会科学分野を専攻し、現在子育て中の女性研究者を支援する「女性研究者への支援」の公募事業を実施しており、これまで過去11回の表彰を通じて、122組の子育て支援活動と、111名の女性研究者への支援を行ってまいりました。

第12回目となる本年度は、子育て支援に資する諸活動を行っている団体・個人220組、育児を行いながら研究を続けている女性研究者142名の応募の中から、以下のとおり12組の活動と、10名の研究者支援を決定いたしました。

また、表彰式は2019年3月5日（火）に野村コンファレンスプラザ日本橋にて開催いたします。

各募集事業の概要・受賞者については、次頁の通りです。

＜第 12 回『未来を強くする子育てプロジェクト』受賞者一覧＞

◎子育て支援活動の表彰 12 組

【スミセイ未来大賞・文部科学大臣賞】

- 一般社団法人 チャレキッズ (福岡県福岡市)

【スミセイ未来大賞・厚生労働大臣賞】

- 特定非営利活動法人 とりで (山口県岩国市)

【スミセイ未来賞】

- 特定非営利活動法人 隠岐しぜんむら (島根県隠岐郡)
- さつき助産院。 (滋賀県大津市)
- 特定非営利活動法人 C・キッズ・ネットワーク (兵庫県西宮市)
- 自然体験活動指導者ネットワーク えんりっと (北海道苫小牧市)
- 特定非営利活動法人 食育体験教室・コラボ (長野県長野市)
- NPO 法人 翼学園 (愛媛県松山市)
- 長崎“障がい児・者の性を考える”教育研究会 (長崎県長崎市)
- 特定非営利活動法人 ホームスタート・ジャパン (東京都新宿区)
- 特定非営利活動法人 ホッピング (和歌山県和歌山市)
- 一般社団法人 美馬森 Japan (宮城県東松島市)

◎女性研究者への支援 10 名

【スミセイ女性研究者奨励賞】

- 石井 弓^{いしい ゆみ}さん (イギリス)
- 太田(塚田) 絵里奈^{おおた つかだ えりな}さん (東京都世田谷区)
- 川崎 えり^{かわさき}さん (千葉県我孫子市)
- 反中 亜弓^{たんなが あゆみ}さん (愛知県春日井市)
- 土谷 真理子^{つちや まりこ}さん (奈良県香芝市)
- 北條 暁子^{ほうじょう あきこ}さん (滋賀県近江八幡市)
- 北 雷^{ほく らい}さん (東京都世田谷区)
- 牧 千夏^{まき ちなつ}さん (長野県長野市)
- 水上 香織^{みずかみ かおり}さん (東京都足立区)
- 吉澤 あすな^{よしざわ}さん (愛知県名古屋市)

◎ 子育て支援活動の表彰 12 組

スミセイ未来大賞 2 組

文部科学大臣賞

■ 一般社団法人 チャレキッズ (福岡県福岡市)

障がいのある子どもたちと受け入れ企業の相互理解を促すキャリア教育プロジェクトを推進

障がいのある子どもの場合、障がいの程度によって就労場所を割り当てられるなど、本人の意思が反映されないまま将来が決められてしまうケース少なくありません。そうした子どもたちに自ら希望する職業に就くという夢を与え、将来の可能性を広げてあげてをめざし、私たちは活動しています。

具体的な活動内容として、多くの企業の協力を得て、さまざまな職種の仕事体験イベントや就労に役立つスキルを学ぶワークショップなどを開催しています。多彩な選択肢とリアルな経験を通じてこそ、子どもたちは自身の特性や「好き」と向き合い、将来の可能性を広げることができると考えているからです。同時に私たちの活動においては、できないことを指導・訓練するのではなく、できることや得意なことを伸ばすことを大切にします。



厚生労働大臣賞

■ 特定非営利活動法人 とりで (山口県岩国市)

自立援助ホームの運営を核に地域ぐるみで子どもたちを支える活動を実施

代表が社会福祉法人に勤務していた際、保護者や子どもたち自身から数多くの相談を受けるなかで、子育てを取り巻く状況の厳しさを目の当たりにするとともに、過酷な環境に身を置く子どもたちを守り支える団体の必要性を強く実感しました。そこで「誰でも子どもを育てやすく、どんな子どもも育ちやすい地域をつくろう」という決意のもとに、「とりで」を立ち上げ活動をスタートさせました。

具体的な活動内容として、15～20 歳までの子どもたちの社会復帰を手助けする自立援助ホームを 2 ケ所で運営しています。また、子どもの居場所づくりとして、土曜日の昼には「とりで子ども食堂」を、平日の夜には「とりで塾」を予約不要・参加費無料で開催しています。最初こそ周知に苦労しましたが、口コミを通じて参加の輪が徐々に広がり、現在は多くの子どもたちが利用しています。



■ 特定非営利活動法人 隠岐しぜんむら （島根県隠岐郡）

都市部からの移住者が多い自然豊かな離島で、島の環境をフル活用した体験プログラムを実施

当団体が運営している「森のようちえん お山の教室」は、雨や雪の日も野外で過ごす自然のなかでの保育を展開しています。幼児にとって、山・海・田んぼなど島ならではの多彩な自然は遊び場であり、貴重な学びの場と考えています。また、自然教育だけに止まらず、島内にある14集落を訪れ、地域の高齢者などと交流し、失われつつある地域の知恵や技術を継承しながら、子どもたちの郷土愛を育むこともまた、私たちの活動の目的です。



■ さつき助産院。 （滋賀県大津市）

「子どもは社会の宝。だから子育てはみんなです」を合言葉に、母親のケアに配慮した子育て支援

支援の手が届きにくい母親の不安や不調に対し、妊娠中から産後直後までを助産師が寄り添い支える活動を行っています。寄り添うことで、社会に一步踏み出す勇気ができた母親のために交流の場「イトトリ」や、専門家による各種講座などを運営しています。「今度は自分たちが新たな母親のサポートをしたい」と母親が母親を支える活動が始まり、活動開始から間もないながらも確かな手応えと広がりを感じています。



■ 特定非営利活動法人 C・キッズ・ネットワーク（兵庫県西宮市）

「食」「お金」「環境」などをテーマに、受講する子どもたちの年齢に合わせた消費者教育の実施

消費や契約を巡るトラブルが増え消費者教育の重要性が高まるなか、私たちはオリジナルの消費者教育プログラムを開発し、学校や児童館などで出前講座を開催しています。プログラムの内容は時代に合わせてリニューアルするとともに、提供方法に関しても一方的な講義という形ではなく、双方向的なやりとりや遊びの要素も加えることで、子どもたちが楽しみながら学べるように工夫しています。



■ 自然体験活動指導者ネットワーク えんりつと （北海道苫小牧市）

森づくりや自然体験活動の指導を通じて、子育て中の母親でも子を連れて活躍できる社会の実現をめざす

これまで自然との接点がなかった親子や障がい児へ、地域の自然を楽しむことを提案する講座や森遊び活動を、子育て中の母親スタッフが自然体験活動指導者の資格を取得し、子連れでも指導に立てる工夫をしながら展開しています。「子を預けて働く」か「育児に専念する」かの選択に悩む母親たちが少なくない今の社会へ、「子を連れて社会で活躍する」という新たな選択肢を示し、この選択肢が受け入れられる社会になることを願い活動しています。



■ 特定非営利活動法人 食育体験教室・コラボ （長野県長野市）

地域のみなさんの協力を得て、子どもたちに食育を通じて「未来を生きる力」を身につける機会を提供

遊休農地を活用した農業体験「キッズふぁーむ」、実店舗での農作物の学びと販売体験「やさいの日」、お弁当づくりのワークショップ「弁当の日」、味噌やだしを学ぶ「和食の日」など、食と農をテーマにした多様な食育活動を行っています。普段の生活ではなかなか経験することのできない農作業や販売、調理やプレゼンといった体験を通じて、参加した子どもたちは自信と積極性、そして生きるために必要な力をしっかりと身につけていきます。



■ NPO 法人 翼学園 （愛媛県松山市）

学校に行けず自死まで考える子どもの心と身体をケアし、
学校・社会復帰に必要な支援を行って確実に復帰へつなげる活動

翼学園は心と教育の専門家集団が運営する学校外通所施設です。長期欠席に陥った子どもの心を回復させ、学校や一般社会に復帰できるまで支援・教育をしています。親や家族のカウンセリングも行うほか、定期的な連絡会で学校との信頼関係を築き、子どもが学校に行ける環境を整えます。子どもに学力・体力・コミュニケーションスキルが身につく、復帰する日が翼学園卒業の時です。これまでに 650 人以上が、学校や社会に復帰しています。



■ 長崎“障がい児・者の性を考える”教育研究会 （長崎県長崎市）

長年にわたる経験と知見を生かし、障がい児が社会に適応していくための性教育の実施

障がい児の性に関する教育や支援が切望されているにもかかわらず、全国的に見てもそうした活動があまりないのが実情です。私たちは学校や施設の職員向けの基礎講座、保護者と専門職との意見交流会、そして障がい児と保護者向けの性教育講座を定期的で開催し、障がい児が社会に適応していくための環境の整備に努めています。社会的なニーズの高まりが予想されるなか、蓄積したノウハウを普及させていきたいと思えます。



■ 特定非営利活動法人 ホームスタート・ジャパン （東京都新宿区）

孤立しがちな乳幼児家庭を地域ボランティアが訪問し親の心に寄り添う支援を 100 地域で実施

ホームスタートは、研修を受けた地域の子育て経験者による家庭訪問型の子育て支援です。無償ボランティアが乳幼児家庭を訪問し、友人のように家事や育児を一緒にしながら親の話に耳を傾け、共に過ごします。親自身の心の安定や子育て意欲の向上をもたらし、地域につながるきっかけにもなっています。世代を超えた地域の支え合い活動は子育ての孤立を解消し、虐待等の発生を予防する他、子育てしやすいまちづくりにつながっています。



■ 特定非営利活動法人 ホッピング （和歌山県和歌山市）

子育てひろばの運営を核にして、母親たちのスキルアップと社会復帰をサポート

未就学児とその保護者のためのコミュニティスペース「ドレミひろば」の運営を中心に、子どもの成長とライフステージに合わせた多様な活動を行っています。母親たちの再就職・起業支援にも力を入れており、ひろばや企業での講師経験を生かして、次のステップに進む母親たちも増えています。今後は企業の「子育てしながら働くこと」への理解促進にも努めるなど、母親と社会との橋渡しに引き続き力を尽くしたいと思います。



■ 一般社団法人 美馬森 Japan （宮城県東松島市）

被災地にある“馬”の牧場での体験プログラムを通じて、子育て支援と復興支援に貢献

馬とふれあいながら森や牧場での仕事を体験する研修プログラムを実施しています。ホースセラピーには癒しの効果に加えて、大型動物でもある馬をハンドリングするなかでリーダーシップやパートナーシップが培われる効果があります。中学生になったかつての参加者がサポート役として積極的に手伝いに来てくれるなど、子どもたちが将来を担う地域のリーダー候補として着実に成長してくれていることをうれしく感じています。



◎女性研究者への支援10名
スミセイ女性研究者奨励賞 10名

■石井 弓：東京大学 東洋文化研究所

<研究テーマ>

歴史における物語の役割—中国農村からヨーロッパへ『趙氏孤児』のもたらした影響関係

■太田（塚田）絵里奈：東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所

<研究テーマ>

前近代アラブ社会における文民エリートと家族戦略としての通婚

■川崎 えり：上智大学大学院 文学研究科

<研究テーマ>

De beryllo（『眼鏡について』）から見たクザーヌス中期・後期思想における〈反対対立の一致〉概念

■反中 亜弓：名古屋大学大学院 教育発達科学研究科

<研究テーマ>

子どもの感情認知の問題が健康及び行動に与える影響
—バイオフィードバックを用いた教育的介入の可能性を探る

■土谷 真理子：大阪大学 全学教育推進機構 非常勤講師

<研究テーマ>

ドイツ語圏近代における自然詩の展開とスイス

■北條 暁子：京都女子大学大学院 文学研究科

<研究テーマ>

出産描写に見る日本古典文学作品の本質
—『紫式部日記』・『古事談』から角田文衛『椒庭秘抄』まで—

■北 蕾：早稲田大学 トランスナショナル HRM 研究所

<研究テーマ>

事業承継者への社会的支援ネットワークに関する日中比較研究

■牧 千夏：名古屋大学大学院 文学研究科 博士後期課程（特別研究員）

<研究テーマ>

地域社会の農民文学史—宮沢賢治の文学創作・文化実践を観点に—

■水上 香織：東京大学大学院 人文社会系研究科

<研究テーマ>

インド系移民の相互扶助的活動と同朋意識

■吉澤 あすな：京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科

<研究テーマ>

家庭での日常実践がつくる平和 フィリピン南部におけるムスリムとクリスチャンの事例から

<住友生命社会貢献事業『第12回未来を強くする子育てプロジェクト』概要>

主催： 住友生命保険相互会社

後援： 文部科学省、厚生労働省

審査員： 選考委員長 しおみ としゆき 汐見 稔幸氏 (東京大学名誉教授、日本保育学会会長)

選考委員 おおひなた まさみ 大日向 雅美氏 (恵泉女学園大学学長)

おくやま ちづこ 奥山 千鶴子氏 (特定非営利活動法人びーのびーの理事長)

よねだ さちこ 米田 佐知子氏 (子どもの未来サポートオフィス代表)

こがわ ひさと 古河 久人 (住友生命保険相互会社 執行役常務)

【子育て支援活動の表彰】

募集内容： より良い子育て環境づくりに取り組む個人・団体を募集します。各地域の参考になる特徴的な子育て支援活動を社会に広く紹介し、他地域への普及を促すことで、子育て環境を整備し、子育て不安を払拭することを目的としています。

応募要件： ◆子育て支援に資する諸活動を継続的に行っていること。

◆活動内容が社会に認められ、ロールモデルとなりうるものであること。

◆活動の公表を了承していただける個人・団体であること。

◆日本国内で活動している個人・団体であること。

表彰： ◆文部科学大臣賞 (スミセイ未来大賞受賞者の1組に授与) / 表彰状

◆厚生労働大臣賞 (スミセイ未来大賞受賞者の1組に授与) / 表彰状

◆スミセイ未来大賞 2組 / 表彰盾、副賞 100万円

◆スミセイ未来賞 10組 / 表彰盾、副賞 50万円

応募数： 計 220組

【女性研究者への支援】

募集内容： 育児のため研究の継続が困難となっている女性研究者および、育児を行いながら研究を続けている女性研究者が、研究環境や生活環境を維持・継続するための助成金を支給します。人文・社会科学分野における萌芽的な研究の発展に期待する助成です。

応募要件： ◆人文・社会科学分野の領域で、有意義な研究テーマを持っていること。

◆原則として、応募時点で未就学児 (小学校就学前の幼児) の育児を行っていること。

◆原則として、修士課程資格取得者または、博士課程在籍・資格取得者であること。

◆2名以上の推薦者がいること (うち1名は、従事した、または従事する大学・研究所等の指導教官または所属長であることが必須)。

◆現在、大学・研究所等に在籍しているか、その意向があること。

◆支援を受ける年度に、他の顕彰制度、助成制度で個人を対象とした研究助成を受けていないこと (科研費・育児休業給付などは支給していても応募いただけます)。

※この事業では、過去の実績ではなく、子育てをしながら研究者として成長していく方を支援したいと考えています。そのため、研究内容のみで判断することはありません。

※国籍は問いませんが、応募資料等への記載は日本語に限ります。

表彰： ◆スミセイ女性研究者奨励賞 10名 / 表彰盾、助成金1年間100万円 (上限) を最大2年間支給。 ※支給期間は2019年4月から2021年3月までの2年間

応募数： 計 142名